

## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年7月31日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9003 URL <https://www.sotetsu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 尊正  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 馬淵 貴裕 TEL 045-319-2043  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	75,082	△7.3	11,105	△22.7	10,240	△30.0	7,355	△30.1
2025年3月期第1四半期	80,998	31.3	14,362	114.1	14,632	113.8	10,529	106.5

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 5,836百万円 (△44.1%) 2025年3月期第1四半期 10,445百万円 (100.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	76.30	—
2025年3月期第1四半期	107.48	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	749,051	181,647	24.2
2025年3月期	757,264	182,079	24.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 181,564百万円 2025年3月期 181,985百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	30.00	—	35.00	65.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	30.00	—	35.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	149,800	0.9	16,400	△25.0	14,900	△28.3	10,300	△32.5	107.01
通期	316,300	8.3	35,100	△7.2	32,500	△6.6	21,300	△4.9	221.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	98,145,499株	2025年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	2,175,051株	2025年3月期	862,502株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	96,400,500株	2025年3月期1Q	97,972,775株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(重要な後発事象の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、ホテル業において好調な宿泊需要により増収・増益となったものの、不動産分譲業での販売戸数減少などにより、減収・減益となりました。

営業収益は750億8千2百万円（前年同期比7.3%減）となり、営業利益は111億5百万円（前年同期比22.7%減）、経常利益は102億4千万円（前年同期比30.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は73億5千5百万円（前年同期比30.1%減）を計上するにいたりました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

#### a. 運輸業

鉄道業におきましては、2026年春より営業運転開始予定の新型車両「13000系」を発表し、プロモーション動画「SOTETSU 13000 SERIES MANUFACTURING STORIES」を公開したほか、駅係員が車いすや白杖をご利用のお客様などの列車乗降をサポートする「移動制約者ご案内業務支援サービス」を導入し、お客様の更なる安全・安心な移動の実現を図りました。また、引き続き、海老名駅改良工事や鶴ヶ峰駅付近連続立体交差工事を推進いたしました。さらに、相鉄いずみ野線 いずみ中央駅開業35周年を記念して、南海電気鉄道「和泉中央駅」、仙台市交通局「泉中央駅」とコラボレーションした「いずみ中央駅開業35周年記念入場券セット」を発売するなど、沿線の魅力向上に努めました。

バス業におきましては、綾瀬営業所の一部系統において、減便ダイヤを実施しておりましたが、6月より復便及び利便性の向上のため、ダイヤ改定を実施いたしました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は113億3千8百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益は21億6千万円（前年同期比36.4%増）となりました。

#### b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、6月に神奈川県大和市の「そうてつローゼン大和駅前店」において店内の回遊性向上と惣菜群の強化を目的とした改装を実施し、店舗の活性化と収益力の向上を図りました。また、「第16回からあげグランプリ®」にて、高タンパク・低脂肪の国産鶏むね肉を使用し、風味付けに地元横浜の老舗「岩井の胡麻油」のごま油で仕上げた「胡麻油香る！醤油唐揚げ」が金賞を受賞し、店舗でも販売いたしました。

その他流通業におきましても、コンビニエンスストアの改装リニューアルを行うなど、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は236億1千万円（前年同期比5.4%増）、営業損失は2千8百万円（前年同期は営業損失1億6千9百万円）となりました。

#### c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、横浜市神奈川区の「グレースシア横浜」、横浜市旭区の「グレースシア南万騎が原マークス」及び横浜市金沢区の「プライムパークス横浜並木 ザ・レジデンス」の集合住宅62戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、横浜駅きた西口鶴屋地区にある複合施設「THE YOKOHAMA FRONT」に隣接する交通広場や、はまレールウォーク（歩行者デッキ）にて「つるやちょうアーバンフェスVol.1.3」を開催し、鶴屋地区のにぎわい創出や来街を促進すると共に、「THE YOKOHAMA FRONT」の上層階にある、事業共創施設「Vlag yokohama（フラグヨコハマ）」では開業1周年を記念し、トークセッションや1日利用体験等の様々なイベントを実施しました。また、同じ横浜を拠点に活躍するプロ野球チーム「横浜DeNAベイスターズ」とスポンサー契約を締結し、地域の活性化を目的に相鉄ジョイナスやジョイナステラス二俣川など、運営する全てのショッピングセンターで「横浜DeNAベイスターズ応援キャンペーン」を実施しました。さらに、昨年開業したゆめが丘ソラトスでは「街のちいさなパンまつり」を開催し、集客力及び収益力の向上に努めました。これらの取り組みに加えて、相鉄ビルマネジメントが事務局を務める（一社）横浜西口エリアマネジメントでは、横浜駅中央西口駅前広場にて「ひとにやさしい空間」をテーマに社会実験「ヨコハマニシグチOPEN PARK」を実施し、将来の同広場をコアとした横浜駅西口の公共空間のあり方や活用方法の検証を行いました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は178億9千3百万円（前年同期比37.8%減）、営業利益は37億9千4百万円（前年同期比60.4%減）となりました。

## d. ホテル業

ホテル業におきましては、「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、オールデイダイニング「コンパス」にてリニューアル記念として人気の「北海道フェア」を開催したほか、宴会部門でも新規案件の獲得により一般宴会の件数が増加するなど、宿泊部門以外でも収益力向上に努めました。また足元の好調を受け、人手不足対策としてベースアップや人事制度の改定など従業員の処遇改善にも努めました。宿泊特化型ホテルにおいては、相鉄フレッサイン長野上田駅前をリニューアルオープンし、収益力の向上を図りました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は185億5千6百万円（前年同期比20.8%増）、営業利益は45億4千2百万円（前年同期比59.0%増）となりました。

## e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、前年度に導入を開始したAI建物管理クラウドシステムの導入施設を拡大、自動清掃ロボットを使用する等、ICTの積極的な活用による業務の効率化を推進いたしました。また、積極的な営業活動により新規物件及び既存物件における臨時業務の受注拡大を図るとともに、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は69億9千1百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は8億8千6百万円（前年同期比38.4%増）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

(資産、負債、純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、未収入金の減少等により前連結会計年度末に比べて82億1千2百万円減少し、7,490億5千1百万円となりました。

負債は、未払金の減少等により77億7千9百万円減少し、5,674億4百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして4,204億9千4百万円となり、50億2千5百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があったものの、配当金の支払いや、自己株式の取得等により4億3千2百万円減少し、1,816億4千7百万円となりました。なお、自己資本比率は24.2%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、前回発表時（2025年4月25日）の予想から変更はございません。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,008	13,120
受取手形及び売掛金	15,942	13,651
営業投資有価証券	15,568	15,658
棚卸資産	79,531	83,971
その他	14,662	10,843
貸倒引当金	△30	△32
流動資産合計	141,683	137,212
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	212,031	210,807
機械装置及び運搬具(純額)	33,345	32,174
土地	262,880	262,964
使用権資産(純額)	14,242	13,085
建設仮勘定	8,324	8,531
その他(純額)	7,050	6,873
有形固定資産合計	537,875	534,437
無形固定資産		
のれん	22	5
借地権	3,547	3,547
その他	4,465	4,194
無形固定資産合計	8,035	7,747
投資その他の資産		
投資有価証券	23,387	23,310
長期貸付金	430	408
退職給付に係る資産	24,113	24,258
繰延税金資産	6,772	6,493
その他	15,486	15,705
貸倒引当金	△522	△522
投資その他の資産合計	69,669	69,654
固定資産合計	615,580	611,839
資産合計	757,264	749,051

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,967	6,909
短期借入金	68,961	61,454
1年以内償還社債	10,000	10,000
リース債務	1,521	1,447
未払法人税等	6,885	3,261
契約負債	4,996	5,612
賞与引当金	2,665	957
その他の引当金	60	106
資産除去債務	104	117
その他	39,966	35,379
流動負債合計	144,130	125,246
固定負債		
社債	165,000	175,000
長期借入金	171,506	174,039
リース債務	15,935	14,729
再評価に係る繰延税金負債	23,891	23,891
退職給付に係る負債	17,131	17,252
長期預り敷金保証金	28,668	28,964
資産除去債務	5,302	5,317
その他	3,617	2,963
固定負債合計	431,053	442,158
負債合計	575,184	567,404
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,981	26,981
利益剰余金	105,044	108,995
自己株式	△1,923	△4,787
株主資本合計	168,905	169,991
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,070	5,925
土地再評価差額金	△1,048	△1,048
為替換算調整勘定	784	△254
退職給付に係る調整累計額	7,274	6,951
その他の包括利益累計額合計	13,080	11,572
非支配株主持分	94	82
純資産合計	182,079	181,647
負債純資産合計	757,264	749,051

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
営業収益	80,998	75,082
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	49,586	46,215
販売費及び一般管理費	17,049	17,761
営業費合計	66,635	63,976
営業利益	14,362	11,105
営業外収益		
受取利息	68	11
受取配当金	143	161
為替差益	769	123
受託工事事務費戻入	16	7
雑収入	132	40
営業外収益合計	1,130	344
営業外費用		
支払利息	772	963
雑支出	87	247
営業外費用合計	860	1,210
経常利益	14,632	10,240
特別利益		
固定資産売却益	2	0
投資有価証券売却益	156	—
補助金収入	31	65
受取補償金	9	13
特別利益合計	199	78
特別損失		
固定資産除却損	85	91
固定資産圧縮損	29	62
特別損失合計	115	153
税金等調整前四半期純利益	14,716	10,164
法人税、住民税及び事業税	5,257	3,248
法人税等調整額	△1,094	△439
法人税等合計	4,162	2,809
四半期純利益	10,553	7,355
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	23	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,529	7,355

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	10,553	7,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	678	△145
為替換算調整勘定	△544	△870
退職給付に係る調整額	△248	△323
持分法適用会社に対する持分相当額	5	△179
その他の包括利益合計	△108	△1,518
四半期包括利益	10,445	5,836
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,443	5,848
非支配株主に係る四半期包括利益	2	△11

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	10,756	22,438	27,778	15,252	4,771	80,998	—	80,998
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	147	△31	977	113	1,574	2,780	△2,780	—
計	10,903	22,407	28,755	15,366	6,345	83,778	△2,780	80,998
セグメント利益 又は損失(△)	1,583	△169	9,579	2,857	640	14,492	△129	14,362

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	11,170	23,606	16,802	18,440	5,063	75,082	—	75,082
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	168	3	1,091	116	1,927	3,307	△3,307	—
計	11,338	23,610	17,893	18,556	6,991	78,390	△3,307	75,082
セグメント利益 又は損失(△)	2,160	△28	3,794	4,542	886	11,355	△249	11,105

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	5,752百万円	6,106百万円
のれんの償却額	17	17

(重要な後発事象の注記)

(財務上の特約がある資金借入)

当社は、2025年7月28日付で財務上の特約が付された金銭消費貸借契約(以下「本契約」といいます。)を締結いたしました。

(1) 本契約を締結した年月日

2025年7月28日

(2) 本契約の相手方の属性

都市銀行他(シンジケート団)

(3) 本契約に係る債務の元本の額及び弁済期限並びに当該債務に付された担保の内容

- ①債務の元本の額 15,000百万円  
 ②弁済期限 2032年7月30日  
 ③当該債務に付された担保の内容 該当事項はありません

(4) 財務上の特約の内容

2026年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

2026年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、直前の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計額の75%に相当する金額以上に維持すること。